

議 長 続いて、植田議員の一般質問を行います。 (午後3時19分)
 (「休みなし」の声) なし。7番植田議員。

7番 植田議員 それでは通告書に従いまして2点、質問をさせていただきます。
 まず1つ目、「5つのまちづくり」と、その柱のうち4項目について問う。昨年3月に示された町長施政方針と、この度、示された第6次川本町総合計画基本計画をもとに、「5つのまちづくり」と、その柱を問うについては、第1に、「地域の特色を生かした産業のまちづくり」に関連して、治水問題と持続可能なまちづくりについてですが、3年前、昨年と続けて被災した瀬尻・久料谷地区、谷地区については一定の目処がついてきましたけども、川本暫定堤防の本堤防化については、知りうる限り目処がついていないのが現状であります。第6次川本町総合計画基本計画の重点プロジェクト3「コンパクトタウン弓市の魅力向上」では、弓市地区を川本町の重要な拠点と位置づけ、その整備については治水問題に一定の方向性がついた段階で実現を目指すとなっております。この点には強く同意するものでございますけども、それでは、弓市地区の治水問題については、どのような方向性で、どのようなスケジュールで進めていくお考えか。また治水問題と並行して議論すべきと考えられる県道川本波多線の改良について、町としてどのような希望や構想をもっておいでか伺いたい。

第2に、治水問題に目処がついた段階で強力で推進されるべき「弓市地区の整備」、又は、今現在、ギリギリ持ち合わせている「コンパクトタウンの機能維持」について、現段階でどのような具体的構想をもっておいでかも併せて伺いたい。

第3に、「幸せを実現する生活環境づくり」に関連して、重点プロジェクト2「医療・介護・福祉サービスの強化」には、「今後も仁寿会が川本町内で医療・介護事業を展開し、川本町との連携を一層強化するための拠点の整備が必要」とありますけども、拠点の整備、又、連携について具体的な構想があれば伺いたい。

第4に、「次代を担う人づくり」に関連して、重点プロジェクト5「保小中高一体型教育環境の充実」では、本町の教育の問題点として「町全体としての人づくりに関するビジョンの不在や組織間の連携体制の構築、保小中高での教育ビジョンの共有、カリキュラムの具体化」を進めていく、としている。これらを進めていくことの必要性は疑うべく事でもありませんけれども、誰がどのように進めていくのかについて伺いたい。

2つ目の「島根中央高校支援について問う」は、これまで本町では島根中央高校の存続と発展が地域の教育資源として欠かせないものであり、同時に、地域経済・社会を支えるインフラとして不可欠であるとの認識から、本来川本町民に対し、支出されるべき本町の財源を、高校支援に支出してきました。これに対し、町民も一定の理解を示してまいりました。しかし、令和2年度

7番
植田議員

の4月入学者は定員105名に対して68名、令和3年度4月入学予定者は105名に対して63名くらいと、2年続いて入学定員を大幅に割り込んでいる。県教委の方より学級数の減が提示されかねない状況であります。この状況が改善されなければ、高校再編も視野に入ってくる。言うまでもなく財政支出については、その費用対効果の検証を行わなくてはならない。本町の高校支援のあり方について、その費用対効果を検証する際の一つの指標は入学者数であると考えております。その入学者数が2年続けて低水準にとどまっている現状をふまえ、これまでの島根中央高校支援の総括と、今後のあるべき姿について、いかがお考えか伺いたい。

なお、この度は、質問項目が多いので、答弁は短時間簡単明瞭にさせていただき、お願いしておきます。以上です。

議長

それでは、植田議員の質問「5つのまちづくり」と、その柱のうち4項目について問う」に対する、答弁をお願いいたします。

番外伊藤地域整備課長。

番外伊藤地域整備課長

植田議員のご質問の内、「5つのまちづくりとその柱のうち4項目について問う」の第1、「弓市地区の治水問題、県道川本波多線の改良」についてお答えいたします。弓市地区における治水対策につきましては、国により、平成28年2月に策定された現行の「江の川水系河川整備計画」において、川本堤防は、現状では「堤防高の不足」とあり、その対策として「堤防高の確保」による氾濫の防止、が盛り込まれております。この堤防の内側に中核をなす市街地が形成されていることから、町としましては、一刻も早い堤防高の確保が、極めて重要であることは言うまでもありません。昨年度から、本町単独で、県への重点要望活動を行っているところでありますが、昨年秋の要望時には、治水対策については、まずは、未堤防地区への対策を優先して訴えてまいったところですが、この秋に予定する県への重点要望では、川本堤防の「堤防高の確保」を国に強く働きかけていただくことを、最重点に置くようシフトアップしてまいりたいと考えております。江の川下流沿線市町で構成されている「江の川下流域治水期成同盟会」や県土木協会による要望等、あらゆる機会やルートを通じた要望につきましても、同様にシフトアップして、今後、国に強く働きかけてまいります。

次に、県道川本波多線の改良についてであります。

昨年の12月に、県土木部から、「今後10年間の公共土木事業の実施方針」が打ち出されました。これにより、道路建設について、「幹線道路及び生活関連道路」は、令和15年度までに、現在事業中の全ての工区の完成を目指し、優先整備していくこととされました。議員ご指摘の主要地方道川本波多線は、県を東西に縦貫し、地域との連携交通網として、さらに、緊急輸送道路としての機能もあるため、まさに

番外伊藤地域整備課長

この「優先整備区間」として位置づけられております。整備していただくにあたり、現時点で意識すべき点が大きく2つあると考えております。

まずは、「緊急輸送道路としての機能」に重きを置いて欲しい、ということでもあります。昨年の夏の再びの豪雨により、本町が、再び、一時孤立寸前となったことから、まずは、洪水時や災害時における緊急輸送道路としての機能、東西を結ぶ幹線道路としての機能が発揮できる、災害の影響を受けない道路の整備が、一番重要であると考えております。

次に、「早期の整備」という観点であります。

昨今の気候変動による降雨量の増大や、それに伴い水害が激甚化・頻発化してきている実情を鑑みれば、必然的に、少しでも早い整備が不可欠であると考えます。このような考えをベースとして、今後も、この機を捉え、川本工区の早期計画策定、事業化に向け、県との協議を重ねてまいります。

議 長

番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上まちづくり推進課長

植田議員ご質問の1項目めのうち、第2の「弓市地区の整備又はコンパクトタウンの機能維持についての具体的構想」につきましてお答えします。このことにつきましては、次期総合計画の重点プロジェクトとして、「コンパクトタウン弓市の魅力化向上」について挙げております。平成30年度に、中心市街地としての機能を担う弓市地区が抱える課題などを整理し、皆様とともに、地区のあるべき姿を委員会方式で検討いたしました。それを土地利用計画案として整理し、それをベースとして、弓市地区が持つ都市機能を活かし、これまで取り組んできた空き家活用や、起業・創業支援を拡充するほか、新しい時代に合ったソフトやミニハード整備等を推進してまいります。主な取り組み内容といたしましては、商店街の機能を維持するために事業承継や空き店舗の活用を図ること、町の魅力化向上のための、旧JR石見川本駅周辺の利活用として、町民の憩いの場、交流の場としての整備を検討します。また一定規模の人口がいることが町の賑わいを高め、生活関連サービス業の維持拡大を下支えに繋がることから、高齢者住宅や定住促進住宅の整備や、民間企業や県等が所有している社宅等の活用なども検討してまいります。

議 長

番外櫻本健康福祉課長。

番外櫻本健康福祉課長

植田議員のご質問の1項目めのうち第3の重点プロジェクト2「医療・介護・福祉サービスの強化」の項目についてお答えいたします。

令和3年度から5年度までを計画期間とする「第8期邑智郡介護保険事業計画」及び「川本町老人福祉計画」では在宅医療・介護連携の推進が掲げられており、本町においてこの2つの機能を兼ね備えているのは

番外櫻本健
康福祉課長

社会医療法人仁寿会です。また、加藤病院は本町だけでなく大田邑智圏域内における慢性期医療を担う病院でもあり、中山間地域における「へき地医療拠点病院」として、この地域の医療を支え続けてこられています。一方で、近年立て続けに発生している水害や地震に対して、施設の耐震基準の問題や浸水想定区域に立地していることから、災害リスクを軽減するためには、より安全な場所への早期な移転が課題とされています。町としてもこうした課題に対して、地域医療を守る視点だけでなく、地域包括ケアシステムにおける機能強化など複合的な面でとらえ、加藤病院と連携して取り組んでまいりたいと考えております。拠点づくりの具体的構想については、役場内における横断的プロジェクトチームを中心に進めることとし、このプロジェクトの実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

議 長

番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

植田議員ご質問の1項目めのうち、第4の重点プロジェクト5「保小中高一体型教育環境の充実」について、誰がどのように進めていくのか」につきましてお答えします。このことにつきましては、町の一体型コンソーシアムを構築して進めていくことを検討しております。このコンソーシアムとは、複数の団体が共同で何らかの目的に沿った活動などのために結成される共同体のことですが、ここでは、家庭、地域、保育所、小中高等学校、役場などで構成し、まちぐるみで保育所から高校までが連携した教育環境整備を進めていくための共同体となります。

現在、島根中央高校では、地域の子供たちにどのように育ててほしいのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを、地域の住民や自治体、小・中学校、社会教育機関、地元企業等と高校とが主体的・創造的な対話を行いながら協働で策定し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」を実現するために、多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制である「高校魅力化コンソーシアム」の立ち上げを進めています。

一方、川本町一体型コンソーシアムでは、まだ検討中ではありますが、保小中高のエリアが重なることから、高校魅力化コンソーシアムと保育所、小中学校の保護者や先生等を加えた形で構成する組織とし、教育ビジョンの実現と推進体制の整備を検討してまいります。高校カリキュラムの編成につきましては、高校支援室におきまして、学校の魅力化向上につながるべく、高校と協議検討を鋭意進めており、この動きをさらに加速化させてまいりたいと考えております。

議 長

ただいまの答弁に対して、質問がありますか。7番植田議員。

7番
植田議員

伊藤課長、私は今の課長の答弁、的確だと思っております。なぜなら、この弓市が、もしも水害で浸かった時、私はこの川本町の終わりになるんじゃないかと危惧しております。そのぐらい大変なことになっていくんじゃないかと思っております。この中には、病院はもちろん、学校、金融機関、あらゆるものが整っています。まさにコンパクトタウン、その機能があります。その機能を維持するためにも急いで本堤防化しなくては私はならないと思っておりますが、今、川本町が2箇所、重点地区として指定されてきつつあります。それが10年かかるように聞いております。その後それ以外のところが決まっていくんじゃないかと思っております。課長、これからしっかりと弓市の本堤防化を要望していくと言われましたけれども、これだけ災害が日本全国あちらこちらで起こっておれば、なかなか予算もまわりにくい。江川の中でも下まで行ったら堤防の無い地区があります。その中で如何に早く、川本の堤防を造るかっていう事になりますと、まず、私この堤防がなぜ暫定堤防で終わっているのかという事を考えてみますに、おそらく三江線があったせいだと考えております。三江線があるために土地がとれないため幅が取れないから高さが足りない、これが現状だと思っております。幸いといっは何ですが、JRは無くなってJR跡地は川本町の町有地になっております。無償でいただいております。例えばですよ、早く堤防を造るためには、誰もが良くなるっていう事を提案すべきだと思うんです。川本も良くなる、国も良くなる、それはどういう事かと言いましたら、タダでもらったJRの用地は川本町として提供します。そして、堤防を造る盛り土は町内の近くからでも安く提供します、原価で提供しますぐらいを私は言うべきじゃないかと思うんですよ。そうすれば、国も「川本、本気でやってくれるんだな」って。確かに買収は要らない、土もコストの安い土が出てくる。これは造るのに容易くなってきた時に、初めて気持ち動くんじゃないかというような気がするんです。もう造ってちょうだいちょうだいっていう陳情の仕方っていうのは、もう私はこれから先、とおらなくなってくるんじゃないかと思っております。ですからそういう提案型の要望をしていくべきじゃないかと思っております。そして、それが叶った暁、例えばその土はどこから出すか。金比羅さんがいちばん私は近いと思っております。固い山じゃないです。そして、その土を採ると、そこに広大な土地が出来ます。そうすれば、今後の町づくり、いろんな展開が考えられると思っております。ですから、まだ10年後から取り掛かりになるのか分からないですけれども、久料谷、谷が終わったら直ぐに川本の本堤防になるっていうぐらいの勢いをもって、陳情、要望を丸山知事とタッグを組んでやっていただけたらと思っております。そういうふうな要望にしないと、これから先、私はなかなか物事は進まないんじゃないかと思っておりますが、この点は町長、どうお考えですか。

議 長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

本町の最大の懸案、治水対策、これは午前中のご質問でもお答えしてきましたとおり、私自身、強固に県、国へ働き掛けをしてまいりました。一定程度、整備手法のところをご説明会が終わって、今後、具体的に進むための動きを未だしていかなければなりません、国の予算化の状況そして枠、実施状況をしっかり見極めていきたいと思っております。その上で、ご指摘のありましたようにこの川本堤防、仰いますようにこの私どもの町の本当に中心的な機能が集結している重要なエリアであります。ここが河川整備計画上也暫定となっているという、そういう事をですねしっかり今年度以降、先ほど課長が申しましたように、もうシフトアップして将来を見据えてこれを是非という事で訴えていきたいというふうに思います。その際には、ご提案にありましたように、これはやはり国もですね関連して申しますと仙岩寺前の沖の土砂撤去をお願いした時に、国の方から地域整備課を通じて撤去した土砂を何処にといい、その時にまた地域整備課が県の方に行って県の方で場所を提供してもらって、やはり国はですね、全体の整備でプロジェクトで残土置き場とか次にどういうそれを戻していく、そういう事を全体をイメージして事業に取り組んでおられますので、町としても適否適地ですね、そういう事もやはり意識しながら、こういう支障がありますよと、こういう提案型の要望は今後、国が河川整備と町づくり一体化したものを進めていくというふうに打ち出そうとしている今だからこそ、議員提案のとおりこうした動きを国にぶつけていこうと思っております。これは史実としてこれは47年災害が観測史上最大と言われておりますが、本町ではこれは森脇 登先生が26年に発行されました「川本歴史断片」という、そういう書物の中にですね、これは1850年6月1日に起こった流域最大のここ200年間で最大の水害の記載があります。これは当時の尾崎副町長、当時の市川整備課長がスケールをもって検証していく方法で光永寺の前の水位を検証した結果、昭和47年の水害よりも18cm、1850年7月1日の水害の水位が高かったという史実がございます。こうした史実も述べながら、国が観測史上最大と言っている47災害、それを上回る洪水が歴史的にあり得るんだという事を意識しながら、しっかりとステップアップして要望してまいります。

議 長

7番植田議員。

7番
植田議員

まだ手を挙げておらんですよ。はい。

(「どうぞ」議長の声)

今、それでは堤防については、これでおきます。次、波多線、まさに課長が言われるとおりだと思います。災害で浸かるような道路があっても機能しません。道路はライフラインです。災害の時でも間違いなく住民が避難できる物資が運べる、そういう道路が必要です。以前、川本の波多線バイパス、これが出た時に町の中から、町を素通りするバイパスは要らない、反対だっという声も可成りでした。でも、こうやって時代が変わってきて、しっか

7番
植田議員

りと街の中におりやすいアクセスを造ると、私は問題ないんじゃないかと思っております。素通りされないような魅力を発信するのが住民の使命だと思っております。そういう力を住民は考え出すべきだと思っております。よって波多線もこういう恰好で急いで強力な要望をしていただきたいと思っております。

次、いきます。この堤防等が整備された後、コンパクトタウンとしての弓市の整備を行っていくとあります。私はそのハード面はそれでも仕方ないと思っております。しかし、機能を残すためには、堤防が出来てからというふうな悠長な事を言っていたら10年以上経ってからのような事を言っていたら、機能はまさに無くなっていきます。ここで住民が暮らし続けるために、どの機能がなくてはいけないのかと、ほぼ全部、なくちゃならないんですよ。今、弓市にある機能は。その機能を残すのに一番大事なのは、この弓市に人を集めるっていう事です。しかも、昼間人口もですが、ここに定住人口を増やす事が一番の重要な事だと私は思っております。そのために何をすべきか、どういう街を造るべきか、そこのところが大事になってくると思うんですけれども。私は医療も産業だと言って選挙をした人間です。医療を産業、それはどういう事かと言いましたら、この川本に在る加藤病院さん、島根県でも有数の訪問医療・訪問介護等を積極的に為さっておられます。そこに、例えば高齢者住宅を造る、ここにもありましたけれども、高齢者住宅を造ってあげれば、その高齢者住宅は町営住宅は可成りのお金を払って入る高級とまでもいかななくてもいいですが、有料老人ホーム、この機能が病院の近くに在れば私は一緒の事になると思うんですよ。加藤病院の訪問医療とか訪問介護、訪問等を受けながらこの町で暮らしていく。住民票を持ってきても邑智郡の介護保険料には響かないそうです。特例措置があつて出身地の介護保険が使えるそうです。ですからそうやって病院の近くに高齢者住宅があればそういう方の方の人の移動が、私は生まれるんじゃないかとも思っております。それともうひとつ、今から先、周辺では間違いなく人が暮らしにくくなります。お年寄りが一人になったり、高齢者で老老介護とかそういう状況になってくる。周辺では暮らせない。と云って、都会の息子さんが連れて帰る事もなかなか出来ない、そういう状況が多々出てくるんじゃないかと思っております。そうした時に町の中に高齢者用の住宅があれば、また近くに病院があれば、そういう訪問等があれば、この町で暮らしていける。都会におられる家族の方も川本に両親をおいておけば、親をおいておけば安心しておられる、そういうまちづくりも私は目指す方向だと思っております。そうやってでも弓市へ人を集めるべきだと思います。定住住宅を若者定住住宅ですけれども、周辺に造っていきました。確かにそれなりの効果もありました。しかし私はしばらくの間、やはり弓市へ投資を集中すべきだと思います。私は昔から言っていましたけれども弓市の復活なくして川本町の復活なしって言いましたけれども、やはりなかなか復活っていうのは難しいですけれども、少しでも弓市へ人を集めるっていう事を、これは行政が主体で出来る事はそういう事しかないんですよ。そうやって町の中に人を集めていく事によって、効率の良い行

7番
植田議員

政サービスが出来る、また町内が人が多くなれば商売も成り立っていく、そういうふうな事を急いでやらないと、どんどん力がなくなっていくんじゃないかと思ってます。これから先、弓市の機能を残す、いろいろ空き家対策とかって言うておられますけれども、もっと一歩踏み込んでいかなくてはいけない時代がもう見えたんじゃないかと思います。ガソリンスタンドを残す、病院を守る、商店を守る。守るためにはどうするかっていう事を本当に考えていって、その機能を残さないこの町は高齢者が暮らせない町に、そういう町になると思います。しかしそういう方達が集められる町だとも思っています。そういう町づくりを目指すべきだとも思っています。これはまた時間が掛かりますので言わないですけれども、これは町づくりとして本当に考えていかないとコンパクトタウン、本当に大事です。金融機関が無くなったら大変です。スーパーが無くなったら大変です。そういう事をね、しっかりとこれから先の事を対策を考えていくべき、もうそういう時代だと思えます。遅いぐらいじゃないかと思っています。そういうところを、まちづくり推進課、しっかりと企画していただきたい。はい、この問題はもうおきます。

はい、次、医療でしたね。民間病院と行政と、それから民間とか私は一緒になってこの町で暮らし続けられる、そういうシステムが出来れば良いなと思っています。その為には中核は加藤病院が大事だと思っています。この加藤病院さん、そして民間の方っていうのは私が思い描いているのは、たすけあい川本さん。こういう小さな拠点づくり、またそういう事を実現してこられて、そういうノウハウも持っておられます。今、小さな拠点づくり、あちこちで作ろうという話が出てますけれども、やはり地域にはそのやり方が分からないというのは実情だと思うんですよ。そういうリーダーがいない、ですからそういう方々に動いていただいて、引っ張っていただく事も大事だし、それから医療と行政が一緒になって地域包括支援センターでも一緒になって、そこに住み続けられるっていう安心な制度を如何に構築するかという事が大事になってくると思っています。ただ心配なのは、今、プロジェクトチームを作って会合でどういう方向を目指せば良いとかか検討しておられるようですけれども、ただ加藤病院さんの方も時間が残されておられません、と聞いております。ですから、出来るだけ早くいつまでにやらなくてはならないという事は病院の方とも相談されて、しっかりと計画して、早くこれは病院を建てるにあたって町がどこかを斡旋するのであれば、住民に対して説明責任が町にあります。そして住民の皆さんがそれなら大方良からうというような同意もなくては、この計画は進みません。ですから早くこのプロジェクトチームとして方向性を出して下さい。その事をお願いしておきます。はい、これもそれで終わります。

それから教育のところですけども、課長ありがとうございました。難しいところは、それで良いです。私は、いちばん心配しているのは教育委員会です。教育っていうのは、教育委員会の使命は私、8割、9割、その小学校、

7番
植田議員

中学校教育だと思っています。その教育には、学校教育、家庭教育、社会教育この3つが柱だと思っています。学校教育には下手に口を出すべきではない。それは学習指導要領というものがあります。それに添って先生がきちんと組み立てておられます。ただ、先生達が動きやすいようにバックアップはすべきです。それが学校教育にして欲しいこと。そして家庭教育、これも私たちが小さい時は大家族制でした。その中で親が働きに行っても、年寄りに教育してもらったり、叱られたりして育ってきました。今の家庭、核家族が進んでおります。だから年寄りとの生活が無いとか、やはり昔とは違ってきています。そしてまた、貧困っていう事もあります。その貧困の中で育つ中で、家庭教育が少しおざなりになっているというような事もあるように聞いております。ですから、そういうところを如何にして補ったら良いのかという事を一生懸命考えて、そういう足りないところをどうして補うんだっていうような企画を考えていただきたい。それと社会教育、これも大事な事です。昔は社会全体で子どもを育てるっていう事がありました。今、なかなか余所の子も叱れない。それからそういう子ども達の交流も少なくなってきております。特に、去年から今年、コロナによってそういう地域の事業も無くなってきております。やはり社会教育どうしたら良いのか、それにはやはり地域のリーダーが、先ず社会教育っていう事は何だかっていう知っていないと理解出来ないと思います。それで川本町の社会教育が進んでいるか、進んでいないか。そういう地域の中で社会教育を進んでやろうっていう人たちが育っているかどうか、私はそうじゃないような気がします、まだ。ですから、ここに基本計画の重点プロジェクト、立派な事が書いてあります。素晴らしい事が書いてあります。これをお経本にせんように(=しないように)、有り難いお経本なんですけれども、このお経本を実の有る物にするには、やはりそういう人材育成なんです。そういう人たちが出やすいような企画、仕組み作り、そういうものをするのが教育委員会の仕事だと思っています。そこらを先ずやっていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

議 長

番外宇山教育長。

番外
宇山教育長

植田議員、仰られますように、やはり人材育成、リーダー育成というのが必要だと私も考えております。社会教育の方で人材育成強化をしていきたいと考えております。

議 長

7番植田議員。

7番
植田議員

それからもうひとつ、教育委員会に言っておきたいと思います。この総合プロジェクトの素案の時に、今まで川本町では小中一貫教育という事が出てきたけれども、議論はされてこなかった経緯があるという事が書いてありました。これは三宅町政一期目の公約でありました。その中に小中一貫校の開

7番
植田議員

設、それが公約として謳われておりました。それで一期目、教育委員会とも議会とも研修視察にも行きました。そうやってだいぶ気運が上がってきたかなと思っていたところなんです、三宅町政二期目になるといつの間にか一貫校という言葉は残りましたが、連携という言葉が出てきました。その時、初めて川本町の教育委員会から連携という言葉が出たと思います。その一貫校を言った時に、先ず皆さん方、皆さん方っていうのは役人の皆さん方ですよ、何を言われたか。やりたくない理由を一生懸命言われました。「学校はどこでやるんですか」って。「どこでというか三島しかないよな」って言う話をすると、「いや、学校は弓市にあるべきです」。「いや、それは無いんだから仕方がないだろ」って、「いや、あるべきです」、「ああそう」。そして中学で言うには「階段の高さが高すぎます」、「ダメなの」、「ダメです」、「いや、そんな事はない。中学校を小学校に替えたところも、この邑智郡内にもあります」、「いや、便所の便器の高さが違う」、「取り替えれば良いじゃないか」って。とにかくやりたくない理由を一生懸命述べられました。そうじゃなくって私はどうしたら出来るかっていう事を考えるべき事をしなくちゃいけない皆さんが、やりたくない理由を言ったんじゃ、どうにも物事が進むわけないです。去年の9月決算委員会、教育委員会の方から小学校、中学校の方で連携に関する研修をしまして、報告がありました。「それで」「いや、研修しました」って。「それから」って言ったら「いや、研修しました」。研修したのは良いんですけども、私が言いたいのは研修の実が教育の現場で活かされて、子ども達にどういう影響があったのかって、良い影響があったのかっていう、そこが見えないと研修した意味も何もないんですよ。だから言葉遊びじゃなくって、本当にね、一生懸命考えていただきたい。そんな難しい事じゃないと思うんですよ。ひとつひとつ、とにかく人づくりから、それからどうしたら出来るかっていう事を前向きに考えていただきたい。一貫教育だけじゃないですよ、全てに関してですよ。その事をだいたい全体に私は職員の皆さんから感じ取っております。やはりどうやったら出来るのかという事を考えていかないと、町は前には進まないと思います。そういう考えで皆さんにやっていただきたい。特に執行部の皆さん、リーダーですから課員を引っ張ってやっていていただきたいと思います。最後に教育長、教育長の前に課長に聞こうかな。教育委員会の使命、主な仕事って何だと思っておられますか。

いや、課長でもどっちでも良いですよ。答えて下さい。

議 長

番外宇山教育長。

番外
宇山教育長

失礼いたします。教育委員会の使命としましては、児童・生徒が安全で安心して学習に専念し、充実した学校生活が過ごせる学びやすい環境づくりが一番大事だと考えております。それが先ず私に与えられた使命だと考えております。一貫校それから9年間の義務教育学校も含めまして、学校の施設等

番外 宇山教育長 議 長	<p>に關しまして今後、検討したいというふうを考えております。</p> <p>はい、7番植田議員。</p>
7番 植田議員	<p>そのとおりです。教育長は我々、川本町の大人が出来うる最高の教育環境を考え作るのが、教育長の仕事だと私も思います。それと良い指導者を連れて来る。この2つが教育長の使命だと思っています。そしてひとつ私、教育委員会に期待しておりますのは、来年度、ハード・ソフト含めた検討委員会を作って、今後の川本町がどうあるべきかっていう事をしっかりと協議して、提言いただきたいと言っておられました。そういうふうに一貫校に拘るつもりはないです。ただ、一貫校に私が拘ったのは、社会教育上、足りないものを一貫校は補えられると思ってきたから、私はこの事はずっと言ってきたんです。社会教育ってそれだけ大事な事だと思っています。何にしましても、今後そういう検討会の中で出たものを尊重して、川本の皆さんが望む環境を教育委員会として町長と一緒に作っていただきたいと思います。はい、これで終わります。</p>
議 長	<p>以上で、「5つのまちづくり」と、その柱のうち4項目についての質問を終了します。</p>
々	<p>次に、2項目めの「島根中央高校支援について問う」に対する、答弁をお願いいたします。番外瀬上まちづくり推進課長。</p>
番外瀬上まちづくり推進課長	<p>植田議員ご質問の2項目め「島根中央高校支援について問う」についてお答えします。</p> <p>島根中央高校への支援のこれまでの取り組みにつきましては、先ほどの香取議員のご質問に対する答弁の中で申し上げましたとおり、ソフト及びハードの両面から高校の魅力化向上に取り組んでおります。そうした最中^{さなか}ではありますが、入学者につきましては、議員ご指摘のとおり、本年も昨年と同様に定員に対しまして6割強の志願者状況であり、この後の2次募集にも期待しているところでございます。議員ご質問の、これまでの支援の総括につきましては、12月定例会における全員協議会でもご説明いたしました。まずもって、高校が現在存続していること。そして、これまでの高校と町との取り組みを県教育委員会が評価され、入学者定員が90名から35名×3学級^{かける}の105名に増えたことです。</p> <p>次に、町外から入学した生徒が本町へ就職するなど、新しい人の流れに繋がっていることです。最後に高校があること、生徒がいることによる経済や賑わいなどで、地域の活性化に繋がることが挙げられます。また、今後のあるべき姿につきましては、</p>

番外瀬上まちづくり推進課長
これからの未来の川本を担う人材の育成を図るために、島根中央高校が、川本町で育った子ども達が、卒業まで自宅から通いながら、自分達が自らの夢を実現する力や現代社会を生き抜く上で、必要な能力を育成することができる高校としてあり続けることが肝要であります。そのための一つの要因として、生徒数を確保のための更なる魅力化向上が必要です。中学の受験生の進路や部活動など多様化するニーズに対応できる高校を目指して、次期総合計画にも挙げておりますが、地域・高校・役場が連携し、進路実現と結びついたカリキュラム編成や部活動に必要な指導者の確保などに取り組んでまいります。

議 長
ただいまの答弁に対して質問がありますか。7番植田議員。

7番
植田議員
今、良かったこと等を、課長、述べていただきましたが、悪かった事も私はあると思うんですよ。なぜ、こういう事になった。その原因はなぜかという。90名が105名になった、その時はずっと良い影響が出てきていた。それがまた下がっていった。そこには何か要因があると思うんですよ。その事についてはどういうふうに考えておられますか。

議 長
番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上まちづくり推進課長
生徒が減ってしまったこと、これにつきましては、先ほど香取議員の時にも原因についてどう考えるかということでございましたけれども、高校の方で、まちごとキャンパス構想というものを今1次を作って、今2次を作っていると説明させてもらいましたが、その1次の時には先ずは生徒数確保だということ考え方をしております。その中で、今回2次を作るにあたって生徒の確保から更に高校の魅力化を上げるためには、そういう学習面であったりとか、いろんな部活動の面というところにシフトしていくというところの考え方で、今キャンパス構想というのを作っておられます。先ほど申されました人が減った理由につきましては、やはり生徒募集に主眼をおいていた前期5年の前のキャンパス構想の動きから、その中でそういった学習面であったりとか、生徒の中での地元の子供達とか近隣の子供達に選ばれなくなってしまった原因がそこにあったのかなというところを思っておりまして、そういったところで2次のキャンパス構想であったり、町が今、総合計画で取り組んでいく高校との一体的な運動というのは、そういうところを踏まえて作っていきたいというふうに考えているところです。

議 長
7番植田議員。

7番
どう言ったら良いのかな。私は多様化、大事なことだと思うんですけれど

も、先ず大事なことは高等学校へ行きたいという子ども達、いろんな考えの方がいらっしやいます。勉強したい子、部活動したい子、友達づくりをしたい子、いろんな考え方があると思います。その中で、いちばん欠けてきたものっていうのは、勉強したい子が選ばなくなった学校になってきたんじゃないかという気がします。人数が減ったから進学率が落ちたっていう事は当然あると思うんですけども、それにしてもやはり国公立に対する、また有名私大に対する入学者数が減ってきた。これも間違いない事実だと思っております。一時的に人数が足りない時、野球に頼る、これは私、正しい選択であったと思っております。でも、いつまでもそれに頼り続けるんじゃない、その間にしっかりとした戦略・戦術立ててしてこなかったところが今、響いてきたんじゃないかと思っております。私ずっと言っていたのは、昔、川本高校にあった3組っていうような進学クラス、こういうものをしっかりとして残すべきだったんじゃないかなと。今でも形としては残っているようだけれども、やはり人数が足りないとしっかりとしたクラス編成が出来ないっていう事なんです。だから勉強したい子が選ばなくなってきた。そういう今、現象が出ているんじゃないかと思えます。それと高校支援の目的って言うのは私は第一に地元の子が行く高校が無くなったらいけないから、中央高校が必要なんだと。だから是が非でも残すんだという考え方が1つ。もう1つはやっぱり地域経済、地域の文化、それと住民の心の支え、そういう面のところが大事だと思っております。それで今日敢えて、この問題を取り上げて大事な町民の為に使う財源を中央高校に使っているんだと言いました。どこまでこれをやったら良いかっていう限度を、私は付けなさいという事も、いつも言うわけなんですけれども、なかなかその中央高校をお金で換算するのは難しい事だとは思いますが、どこかで判断をして線を引かなくてはいけないという事はあると思うんですよ。そうしないと乏しい財源の中で、町の運営をやっているわけです。やはり人口がどんどん減っていく中、もう2000人台が目先の先に見えてきた、そういった時代の中で高校も大事だけど、今しっかりと町づくりをしておかないと2000人の人口に耐えられる町にはならない、僕はそう思ってます。でも、高校支援は止めろって言うんじゃないですよ。だから有効なものにしくちやいかん、無駄遣いがないようにしくちやいかんっていう事なんです。極論を言ったら今、中央高校支援、総額で来年度、1億1,540万の予算ベースで上がっております。その中で特定財源が7,860万。一般財源で出すのが、3,680万。このうわに子育て支援の方に高校生医療費として隠れているものがあります、百数十万。そして今、学習交流センター、そしてC Peaces+（シーピース）女子寮、これを造ったりした借金が約8億7千万というものが高校支援に使われております。この返済金が過疎債を使っていますので3割、500万ちょっとのものが出ていきます、うわに。そうしますとだいたい4,350万ぐらいが今、来年度ベースで必要になってきます。そしてC Peaces+等を建てたために、今後この過疎債の返済の持ち分のところですね、自費で

7番
植田議員

払うところ、これが1,900万まで膨れあがってきます。そうするとピーク時には5,700万、一般財源から持ち出ししていかなくてはならないです。だからこの事も私は住民に知っておいていただきたい。住民にも判断してもらう材料が必要だから、敢えてこういう事を言いました。このお金が無駄じゃ無いっていうふうにするのが我々そして役場の仕事です。ですからこのお金が有効な結果を生むような支援はどうあるべきか、これは我々も考えなくてはいけないけど、やっぱり、いの一番は中央高校が考えるべきです。もし、今後こういう状況が続くのであれば、私は歩合制にしたって良いと思います。報償制にしたって良いと思います。なんかやっぱり本気になっていただきたい。本気じゃないとは言いませんけれども、でも結果が全てですから。うちも本気にならなくちゃいけない、中央高校も本気にならなくちゃいけない、そうやって中央高校が残っていく、この事が一番大事だと思っております。それが出来ないのであれば、川本町の高校生、約60人です。毎月5万円の奨学金を出しても年間60万。60人で3,600万。今、出しているお金よりも少ないです。そうする事にすれば川本町の子ども全員に行き渡るんですよ。今、中央高校に行っている子しか恩恵いてないんですよ。でも5万円の奨学金を出せば、川本の高校生全員に行き渡ります。そういう極論も考えられます。そうならないように、中央高校がきちんと存続できるように、それから全ての子どもの受け皿になれるような学校にするべきだと思っております。それにはやはり町長、私は県教委にも営業活動をしていただきたい。人数が少なくてもやはり私は進学クラスをしっかりとしたものを作るべきだと思います。そうしないと、うちの子どもは行かない。それから周辺の学校の子も来れない、そういう子も来てくれなくちゃ人数確保できないんです。そういう事もしっかりと運動していただきたいと思いますが、町長どうでしょうかね。

議 長

番外野坂町長。

番外
野坂町長

この島根中央高校、以前にもこの場で述べたかも知れませんが、川本高校・邑智高校統合時にですね、当時の澄田知事がこれは県立学校の中で唯一島根の冠を付けられたと。そこに県の思いが込められた学校であるというふうに承知をしております。その考えも今も県教委の中でも脈々と流れているというものと思っております。これは昨年の治水の要望の事で述べましたが、昨年、県として単独要望を行った時にも中央高校支援の事はしっかりと要望してまいりました。教育長、教育機関のところに行った上で、これは宇山教育長と一緒に。そしてその上で知事にもお願いをしておきました。議員仰いますように、このなくてはならないこの中央高校をまさにその県がしっかりと県として2カ年の現実を、私が言うまでもなく、検討していただいていると思っております。私自身はこの事に対する県教委の姿勢はですね、またこれは来年度の公務員体制がどうなるかという事に期待は寄せたいわけですが、

番外
野坂町長

そういう期待を寄せる一方で議員仰いますように、この中央高校を町としてしっかり支えていくと、こういう高校であって欲しいと同じと一緒に同じ方向でこの人が集う川本町の拠点たる中央高校であって欲しいという事が、しっかり県に伝わるように私が、そして宇山教育長と一緒にになって県への働き掛けを更に強めてまいります。

議 長

7番植田議員。残りが3分となりました。

7番
植田議員

はい、大丈夫です。川本高校・邑智高校が統合が決まり、校名が決まりました。その時、旧川本庁舎の応接間で県教委の方が来られて、町長・副町長、それから我々議員、そこに集まって校名の発表を聞きました。その時に皆さん、「えっ川本高校が多いはずだったのに、川本高校じゃないのか」っていう意見がたくさん出ました。私はひとり「たいへん良い名前を付けていただきました。ありがとうございました。」って言いました。そしてもうひとつ「しっかりと進学クラスを作ってください。」って。これが中央高校が今後残っていくために大事なことだということを言いました。その時に県教委の方が「前向きなご意見ありがとうございました」って言われました。私はずっとその時から、この邑智郡の子どもの誰もの受け皿になる高校っていうのは、やっぱり全部、人なんです。旧川本高校の大きさ、あれは邑智郡の子どもが全員入れる大きさよりもまだスペースがあります。それぐらいの学校規模で作ってあります。ですから全ての子どもが中央高校を選ばれるようなクラス編成がされていないといけないと思っていました。ここまで人数が少なくなったら仕方ないですけども、やはりそれでも選ばれるためには進学クラスも必要、部活動も必要、友達関係も必要、ですからそういう事がなるようにやはりしっかり教育委員会・町長、県の方にお願いをして下さい。以上で終わります。

議 長

以上で、2項目めの「島根中央高校支援について問う」の質問を終了いたします。

々

これを持ちまして、植田議員の一般質問を終了いたします。

々

以上をもって、本日の議事日程を全て終了いたしました。
お疲れ様でした。

(午後 4時18分)

この会議録は、川本町議会事務局長 名原 昌邦 が記載したもので、その内容に

おいて、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員